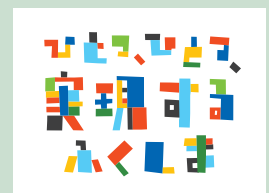




福島林業

No. **709**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小楡山善継



9

2023

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 全 員 集 合



期待に応える 優良な苗木づくりを目指して

福島県農林種苗農業協同組合
代表理事組合長 上原 和直

福島県農林種苗農業協同組合の業務運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度より新たに代表理事組合長に就任いたしました上原和直です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今夏、国内では記録的な猛暑が続き、世界的にも熱波や猛暑により大規模な森林火災や、海面水温の上昇によるスーパー台風が発生などで大きな災害が多発し、地球規模で温暖化による気候変動が進行していると感じざるを得ません。

国においては、地球温暖化対策の一つとして、CO₂の森林吸収量の目標達成や二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に貢献していくため、本格的な利用期を迎えた森林資源の循環利用を進めるとともに、成長に優れた刈り回数の削減が期待される特定苗木（特定母樹から育成された苗木）による再造林や新たな技術を導入し省力化を図る「新しい林業」に取り組んでいます。特に特定苗木については、令和十二年までに林業用苗木の三割、令和十二年までに九割としていく目標が設定されています。

また、国民病とも言われる花粉症に対処するため、対策三本柱の一つとして、スギ人工林の伐採と花粉の少ない苗木への植替えを加速させ、花粉発生量を十年後には二割減、三〇年後には半減を目指すこととしております。

福島県においては、原発事故により被害を受けた森林・林業の再生を図るため、森林再生事業に取り組んでいます。次のステージとして再造林が大きな課題となります。

このように森林吸収源対策や花粉症対策、再造林推進への対応が求められる中、対策に有効な苗木をできるだけ早く安定的に供給していくことが私たちの使命であると考えます。

当組合においては、昨年よりスギ特定苗木コンテナ苗の出荷を開始し、今年度は県内で植栽されるスギ苗木の約四割にあたる三四万本を出荷できるような生産体制を整えています。また、県の種子生産を補完し、優良な種苗を安定的に供給していくため、会津地方と浜通り地方に特定母樹採種園の整備をすすめています。

花粉症対策用の苗木についても、スギ少花粉品種（花粉量が従来のスギの一割未満）の生産を開始し、令和七年春に本格的に出荷していく予定です。今後、令和十四年までに供給するスギ苗木は全てを特定苗木または少花粉苗木に切り替えていく計画です。

当組合では今後も関係機関・団体と連携を強化し、特定苗木や少花粉苗木などの優良な苗木の安定供給をとおして、社会的要請と持続可能な林業に貢献してまいりたいと考えております。皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

《も く じ》

とびら	
期待に応える優良な苗木づくりを目指して	
福島県農林種苗農業協同組合	
代表理事組合長 上原 和直	1
ふくしま伐木チャンピオンシップ (FLC) に参加しませんか	2
県政コーナー	
非破壊検査による出荷制限品目の出荷について	3～4
第41回福島県治山林道研究発表会について	5

第49回福島県緑の少年団大会の開催	6
林業アカデミーふくしま研修日誌④	7
普及指導員通信	8
森連だより	9
福島県林業労働力確保支援センターだより	10
木の文化を育む⑤	11
木材市況・ふくしま東西南北	12
はなしのひろば・お知らせコーナー	13

ふくしま伐木チャンピオンシップ (FLC)に参加しませんか

林業・木材製造業労働災害防止協会 福島県支部

当支部では、林材業に携わる皆さんに対して、安全衛生教育講習や労働災害防止現場指導並びに安全装備の購入補助等の各種事業を実施しており、国・県・林業関係団体と連携して林業労働災害の撲滅に取り組んでいるところです。

林業の作業技術に関しては、他産業のように技能検定制度が未整備であることから、自分の技術力を計る基準もなく、ただ漫然と作業に携わって来られた方も多いのではないのでしょうか。そこで、林業作業者の技術力の向上、安全作業に対する意識の高揚を図ることを目的として、林業作業で最も使用頻度の高いチェーンソーの操作技術に関する福島県内独自の取り組みとして、世界伐木チャンピオンシップ(WLC)ルール基準を参考に「福島県チェーンソー選手権」を二〇〇八年(平成二〇年)(※二〇〇八年は福島県林業研究センター公開デー関連行事「木こり番

付プロクラス)から実施してきました。

そのようななか、二〇一四年に日本もWLC加盟国となり同年の第三一回WLCに日本代表チームを派遣することとなったことから、国内代表選考大会として第一回日本伐木チャンピオンシップ(JLC)が開催され、世界基準のルール基準が広く周知・認知されることとなりました。

二〇一四年以降四回のJLCが開催され県内からの参加者も増えてきたこともあり、福島県チェーンソー選手権の競技内容見直しに関する要望(JLC競技種目準拠)が大きくなってきたことから、二〇二二年福島県チェーンソー選手権から競技種目の見直しを行い、県内のJCL参加経験者によるデモ競技会を実施し、JLCルール基準で実施する場合の問題点等を検討して、二〇二二年に第一回の「ふくしま伐木チャン

ピオンシップ(FLC)」を開催しました。第一回のFLCはJLC優勝経験者二名の県外選手を招待し五種目(伐倒、ソーチェン脱着、丸太合せ輪切り、接地丸太輪切り、枝払い)のマスタークラスと三種目(伐倒、丸太合せ輪切り、接地丸太輪切り)のビギナークラスで実施しました。

本年も、第二回ふくしま伐木チャンピオンシップ(FLC)を十月に予定されている「福島県林業祭」の併催行事として同日に行う予定としています。マスタークラスはJLC

ルール基準の競技(五種目)、ビギナークラスは三種目(丸太合せ輪切り、接地丸太輪切り、枝払い)を実施する計画としておりますが、ルールの詳細や参加申し込み方法等は県農林事務所からのお知らせ及び県ホームページ並びに当支部ホームページでお知らせして参ります。

林業技術及び安全作業の向上並びに林業の仕事を広く一般に広め、林業の社会的地位向上を図ることがFLC、JLC、WLCの共通の目的です。多くのチェーンソー操作者の参加をお待ちしております。



伐倒競技(簡易方式)



枝払い競技

県政コーナー

非破壊検査による 出荷制限品目の出荷について

福島県林業振興課

福島県の特用林産物のうち、野生のきのこについては五五市町村、山菜類は品目によって最大五七市町村において、現在も出荷が制限されています。

これらの出荷制限の解除にあたっては、「野生きのこ類等の出荷制限解除に向けた検査等の具体的運用について」（平成二十七年十一月二〇日付け林野庁林政部経営課長通知）に基づき検査を当面三年間実施し、放射性セシウム濃度が安定して低水準（食品衛生法で定める一般食品の基準値の概ね二分の一以下）であること、及び低下傾向にあることが確認されてようやく国に申請することができます。

東日本大震災から十二年以上が経過していますが、これまでの出荷制限解除の実績は、県内でも比較的、原発事故の影響が少ない会津地方の市町村を中心に、きのこ・山菜とも八市町村七品目（表―1）と、あまり進んでいない状況となっております。

このため、県では出荷が制限されている市町村においても非破壊検査による全量検査を行い、安全が確認された検体について出荷ができる仕組みづくりを進めていますので、その内容について紹介します。

1 非破壊検査の公定法

県では、平成三〇年度から、出荷

が制限されている野生のきのこや山菜について非破壊検査装置（図―1）で測定し、基準値を下回っていることが確認された場合は出荷を認めるなどの制度の見直しについて、国に要望を続けてきました。

その結果、令和二年度から、国立医薬品食品衛生研究所及び近畿大学原子力研究所による研究班が厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）の採択を受けて「非破壊式装置による測定とGe検出器を用いた公定法の比較検証」を行うこととなり、福島県など出荷制限市町村を抱える関係各県において出荷再開が望まれる品目を重点的に検証を進めるため、県としても野生きのこ等の非破壊検査機器及びGe

半導体検出器による放射性物質濃度のデータ収集や検体の提供に協力してきました。



図―1 非破壊検査装置

【きのこ】

市町村	品目	解除年月日
西会津町	ナメコ	H29. 4. 24
会津美里町	ムキタケ	H29. 4. 24
西会津町	ムキタケ	H30. 3. 29
只見町	ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ	H30. 3. 29
西会津町	マイタケ	R 1. 9. 5
只見町	ナラタケ、ブナハリタケ	R 1. 9. 5
柳津町	マイタケ	R 1. 9. 5
三島町	マイタケ	R 1. 9. 5
昭和村	ムキタケ、マイタケ	R 1. 9. 5
会津若松市	ムキタケ	R 2. 9. 17
会津美里町	ナメコ	R 2. 9. 17
会津若松市	クリタケ	R 3. 8. 24
西会津町	クリタケ	R 3. 9. 29
昭和村	ナメコ、クリタケ	R 3. 9. 29
下郷町	ムキタケ	R 5. 4. 27
只見町	マツタケ	R 5. 8. 8

【山菜】

市町村	品目	解除年月日
会津美里町	くさそてつ（こごみ）	H29. 9. 11
田村市	ふきのとう	H31. 2. 27
喜多方市	わらび	R 2. 4. 24
古殿町	くさそてつ（こごみ）	R 3. 4. 9
郡山市	おおぼぎぼうし（うるい）	R 4. 3. 24
天栄村	ふき	R 4. 9. 15
鮫川村	もみじがさ（しどけ）	R 5. 1. 26
須賀川市	うわばみそう（みずな）	R 5. 3. 30

表―1 出荷制限解除一覧（～令和5年8月）

また、厚生労働省では、これまで非破壊検査法は原則として認められていなかったため、前述の研究成果を踏まえ、非破壊検査の公定法の策定及び「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」（平成二三年四月四日原子力災害対策本部）の改正など、必要な制度改正を行うこととし、令和三年三月二六日付けで「県が定めた出荷・検査方針により、きのこ・山菜類等を適切に管理・検査する体制が整備された場合は、非破壊検査により基準値を下回ったものを出荷することができるとする一部解除の条件が追加され、同日付けでまつたけにかかる非破壊検査法による食品中の放射性セシウムスクリーニング法（以下「非

破壊検査スクリーニング法」という。）が定められました。以降、下記の品目について、非破壊検査スクリーニング法に追加されています。

- ・令和四年三月二五日付け 皮付きたけのこ、ねまがりたけ
- ・令和五年三月三〇日付け なめこ、ならたけ、むきたけ

2 出荷管理・検査体制の整備

令和三年度については、非破壊検査による出荷初年度ということもあり、万全の出荷管理体制を確保するため、県が自ら検査及び出荷管理を行うこととしました。

主な検査の流れは次のとおりです。

- ①出荷希望者は、最寄りの農林事務所（森林林業部）において管理台帳に登録の上、検査を依頼
- ②県は林業研究センターに設置されている非破壊検査機で検査を行い、スクリーニングレベル（ 100 Bq/kg を超過しないよう検査機器によって設定された基準値）を下回ったマツタケに検査済証を貼付して出荷者に返納（図-2）
- ③出荷者は管理台帳に登録された販売店等に出荷
- ④スクリーニングレベルを超過したマツタケは、出荷されないよう県が廃棄

3 課題と新たな体制づくり

県による検査及び出荷管理体制においては、検査を行える場所が県内に一カ所（郡山市）ということもあり、まつたけの産地によっては、出荷希望者が検査を依頼してから検査に合格したまつたけが手元に戻るまでに数日を要するため、鮮度保持の観点から商品価値が下がるなどの課題が残りました。

このため、令和四年度は、検査依頼を受けた農林事務所職員が、直接、検査場所に検体を持ち込んだり一日あたりの検査件数を増やすなどして効率の向上を図り、検査依頼当日、遅くとも翌日の朝には出荷希望者の手元に届けられるよう改善したところでした。

また、この年にねまがりたけの非



図-2 非破壊検査に合格したまつたけ

破壊検査スクリーニング法が示されたことから、出荷が制限されている猪苗代町において出荷の再開を目指すとともに迅速な販売に繋がるよう、町の農業活性化協議会による検査及び出荷管理を行う体制を整備することとしました。（図-3）

なお、令和四年のねまがりたけシーズンが例年より早かったことに加え、出荷管理体制の準備に不測の日数を要したため、令和四年度の出荷実績はありませんでした。令和五年度は、五検体のねまがりたけについて再出荷することができました。（図-4）

さらに、今後、採取エリアの拡大等により検査件数が増大する見込みがあるため、非破壊検査装置の増設について、ふくしまの恵み安全・安心推進事業により支援しました。



図-3 猪苗代町農業活性化協議会による非破壊検査

4 今後の展開

非破壊検査のメリットは、その名のとおり切り刻まずに検査が出来るため、安全が確認された検体は、出荷制限が指示されている市町村であってもそのまま出荷ができることとあります。

現時点では、まつたけ、皮付きたけのこ、ねまがりたけ、なめこ、ならたけ、むきたけが非破壊検査スクリーニング法の対象品目となっておりますが、他の品目についても追加されるよう、国や関係機関との調整を継続するとともに、地域の実情に応じた検査・出荷管理体制の構築に向けた取組を行ってまいりますので、野生のきのこ・山菜類の出荷制限を抱えた地域の皆様におかれまして、積極的な非破壊検査体制の整備についてご検討をよろしくお願いたします。



図-4 非破壊検査に合格したねまがりたけ

第41回福島県治山林道研究発表会について

福島県農林水産部森林整備課・森林保全課

1 はじめに

福島県では、治山・林道業務等に関する研究や情報等の発表と意見交換を通じて職員の技術の向上を図り、森林土木事業の発展に寄与することを目的に、標記発表会を令和5年7月20日(木)に福島市の杉妻会館で開催しました。各農林事務所や市町村職員など計77名が参加し、治山部門7件、林道部門3件の計10件の発表がありました。



2 発表内容及び審査結果

主催者あいさつ

(1) 発表内容

No.	所属	氏名	区分	題名
1	相双農林事務所	星野 祐介	治山	海岸防災林における災害復旧工法の検討
2	南会津農林事務所	阿部 正幸	林道	会津地域の林業専用道のあり方について-昼滝向山線を題材に-
3	森林保全課	片野 高志	治山	盛土規制法の概要について
4	いわき農林事務所	寺崎 史也	治山	海岸クロマツ林の生長不良箇所調査について
5	森林整備課	菅野 萌	林道	洗越工の走行の安全に関する一考察
6	県北農林事務所	菅野 聖	治山	溪間工打継目におけるブリード・ボンド工法の活用について
7	県中農林事務所	宮村 知快	治山	県中農林事務所管内における林地開発の現状と課題
8	県南農林事務所	齋藤 麻衣	治山	自然公園等での治山事業における自然侵入促進工について
9	会津農林事務所	大野 真紀	林道	令和4年8月豪雨災害における林道施設の復旧状況について
10	南会津農林事務所	安田 菜生	治山	間伐材型枠の現状と今後の使用方針について

(2) 審査結果

審査員14名による厳正な審査が行われ、治山・林道それぞれで全国や北海道・東北地区で行われる発表会への推薦者を決定しました。

【第63回治山研究発表会へ推薦】

いわき農林事務所 寺崎 史也

【第58回林道研究発表会へ推薦】

南会津農林事務所 阿部 正幸

【第58回北海道・東北地区治山林道研究発表会へ推薦】

相双農林事務所 星野 祐介



いわき農林事務所発表

3 おわりに

今回の発表会は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、4年ぶりに人数制限を設けない開催となりました。

多くの方に参加いただき、森林土木事業に関する様々な提案や事業効果の検証、事業実績の報告などの発表が若手職員を中心に行われました。

近年、気象災害が激甚化・頻発化しており、森林土木事業に求められる役割はますます大きくなっています。このため、今後も森林土木技術の更なる向上、技術の研鑽に励んでまいります。



南会津農林事務所(林道)発表

第49回福島県緑の少年団大会の開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

令和五年七月二十四日(月)、大玉村農村環境改善センターにおいて、第四九回福島県緑の少年団大会を開催しました。

本大会は、県内の緑の少年団が一堂に集まり、これまでの緑化活動の実績の発表や交流活動を通して相互に友情と連帯を深め、豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的に開催するもので、県内少年団十二団約一三〇名、参加者全体では約一九〇名と昨年を上回る団数・人数が参加しました。

主催者挨拶から始まり、柳田範久福島県農林水産部次長(県知事代理)、押山利一大玉村長から来賓祝辞、第四四回福島県緑の少年団活動コンクールの表彰式(受賞団は当協会ホームページに掲載)、県知事賞を受賞した会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団による活動発表、地元少年団(大山小、玉井小)による誓いの言葉の順に執り行いました。

●今大会参加少年団

- 開成小学校緑の少年団(郡山市)
- 中郷小学校緑の少年団(三春町)
- 五箇小学校緑の少年団(白河市)
- 会津若松市立大戸小学校
緑の少年団
- 会津若松市立川南小学校
「ホタルの里」緑の少年団
- 猪苗代小学校緑の少年団
(猪苗代町)
- 猪苗代町立緑小学校緑の少年団
- 磐梯第二小学校緑の少年団
(磐梯町)
- さくら小学校緑の少年団
(北塩原村)
- 綴秋山みどりの少年団
(いわき市立綴小学校)
- 大山小学校緑の少年団(大玉村)
- 大玉村立玉井小学校緑の少年団

なお、県知事賞受賞の川南小学校「ホタルの里」緑の少年団は、今年度全国育樹祭の併催行事として開催される「全国緑の少年団活動発表大

会」に推薦したところ、最高賞のみどりの奨励賞(国土緑化推進機構理事賞)に全国五団の一団として選ばれました。今後は十一月十一日に茨城県で開催される全国発表大会で活動発表を行うとともに席上で表彰されます。

午後は、会場をふくしま県民の森(同村)に移し、昼食をはさんでNPO法人福島県もりの案内人の会、白河高原薪の会の方たちの指導のもと、少年団は二班に分かれて県民の森での自然観察と森林学習館での丸太切り・薪割りの交流活動を行いました。

自然観察では、森の中を散策しながら、草木や生き物など自然について学び、丸太切りでは、ノコギリで一〇cm程の太さの木を切り、紙やすりをかけてコースターにし、また、薪割りでは、薪を安全に割ることが出来る専用の道具「キンドリンググラッカー」を使って薪を割る体験をしました。

今回、新型コロナウイルス

ルスの感染症法上の位置づけが五月に「五類」に移行してからの開催でしたが、未だコロナの感染者が発生している状況下のため、昨年に引き続き来賓の方々の出席を縮小し、大会を実施しました。

来年は五〇回目を迎える記念大会となりますので、盛大に大会が開催できるよう準備を進めていくとともに、今後とも緑の少年団が継続しう支援してまいります。



表彰式



自然観察



丸太切り



薪割り

林業アカデミーふくしま研修日誌④

福島県林業研究センター

就業前長期研修四ヶ月目の七月の研修では、一回目のインターンシップがあり、研修生たちは就業に必要なスキルや心構えなど、大きな収穫を得るとともに、たくさんの課題も明確になりました。

○七月の研修内容

「玉掛け技術」の講義では、三日間にわたり玉掛け技能講習を受講しました。九月に学ぶ架線集材では木材にワイヤーをかけて集材するため、この資格が必要になります。

「林内路網（バックホー基本操作）」では、先月資格を取得して扱えるようになったバックホーの操作実習を行いました。感覚を掴むために基本操作を何度も繰り返し、また急傾斜の登り降りも練習しました。

「下刈り」では、アカデミー敷地内の平地で基本動作を身につけたあと、実際の現場で実習を行いました。研修生たちは、現場での足の運び方や刈払機の扱い方などを学び、実践的な操作に苦戦しているように

した。夏場の下刈りを体験し、こまめな休憩や水分補給の大切さに加えて、真夏の作業の厳しさを実感しました。

「つる切り、除伐」の実習では、下刈りと併せて現場で行い、鉋や鋸などの手道具の使い方を学びました。

「育苗」の講義では、苗木生産の一年間の流れや、樹種とその用途について学びました。

今月はインターンシップに向けて「チェーンソー伐木造材技術」の講義を五回行い、技術の向上を図りました。伐倒方向に狙いを定めて受け口や追い口を作り、受け口の角度やつる幅などを計測することで精度を高めました。

「ハーベスタシミュレータートレーニング」の講義では、基本操作に慣れるとともに、実際の現場において注意すべきことなどを意識しながら練習しました。

最後の週は、三日間「就業体験（インターンシップ）」を県内の森林

組合や林業事業体で行いました。研修生一同多くの課題を発見し、終了後にはお互いに体験した仕事や技術的にご指導いただいたことを共有して学びを深めていきました。

○研修生の感想 吉田香織さん

林業アカデミーふくしまに入講して四ヶ月となりました。七月は玉掛け技術の資格取得やチェーンソー・刈払機を扱ったフィールドでの実習、そして一回目のインターンシップなど、就業を見据えた講義でした。また、今まで学んできたことを整理しつつ、実践的に機械を扱うことで多くの課題を発見することができた、そんな一ヶ月となりました。

育苗の講義では、南相馬市にある上原樹苗さんを見学させていただき、苗木の生産過程や山で自生している苗と畑で栽培している苗の生育の違いを学ぶことができました。また、上原さんの「森林をデザインするために植物を知ることが大切だ」という言葉に感銘を受け、植物の知識を深めていきたいと強く思いました。インターンシップでは、主に下刈りと間伐の現場見学でしたが、大きく感じたことは効率の良い作業をするためには身体への負担をいかに小さくできるかが重要だということ

です。下刈りでは自分の体に合わせた刈払機の調整の仕方や目立ての重要性、足の運び方や苗木周辺での刃の動かし方など、細かく教えていただきました。間伐の現場では、造材時の状況に合わせたチェーンソーの入れ方や集材しやすいように伐倒方向を決めること、どこまで枝払いをするか考えること、チェーンソーの目立てをするタイミングやそれにかかる時間など、実際の現場の方々の声を聞き、注意点や工夫点を学ぶことができました。

今回のインターンシップでは、刈払機やグラブの操作で指摘をいただいた点があるので、これらの課題を克服できるよう取り組むと同時に、研修にご協力いただいた関係各所のみならず、誠に感謝しながら、今後の研修もより一層励んでいきたいと思っております。



ガンマークで伐倒方向を確認する研修生

県北地方の森林整備の 推進について

福島県県北農林事務所

林業普及指導員 村上 宜己

1 はじめに

県北農林事務所では、森林の多面的機能の発揮に向けた多様な森林づくりを推進するため、効率的な林業経営が見込まれる森林や手入れが行き届いていない森林の整備を進めるに当たり、様々な取組を行っています。今回、森林所有者等の林業経営意欲向上のための利益還元のための拡大に向けた「採材技術研修」や、森林経営管理制度の推進を図るため、市町村と連携した「森林経営管理制度県北地域連絡会議」を開催しましたので、その取組について紹介します。

2 取組内容

(1) 採材技術研修の実施

建築用材の価格が低迷する中、森林所有者等への利益還元の拡大が森林整備推進のカギとなるため、令和5年7月14日、伊達郡川俣町小綱木地内において、販売に有利な素材の採材方法を学ぶ研修会を開催しました。講師には、(有)福島原木センター佐藤代表取締役を招き、森林組合、林業事業体、市町村担当者、林業普及指導員の23名が参加しました。

講師からは、①10月から4月まで繁忙期、それ以外オフシーズンで、その時その時で一番売れる単価の高い採材となるよう玉切りすることを心がける（建築用材、合板、チップが高いなど）、②曲り材よりは直材、3mよりは4mで採材するなど基本的な採材を心がける、③現在のA材、B材の単価の差が少ない状況では、玉切りに5分、10分と時間をかけて頭を悩ませるよりは、基本的な考えのもと効率的に作業することが重要となること、などについてアドバイスがありました。参加者は班毎にアカマツの採材の検討を行い、採材の違いから販売価格に差が出ることを学び、採材の重要性について改めて認識を深めることができました。

(2) 森林経営管理制度県北地域連絡会議の開催

各市町村における取組状況の共有、取組に当たっての課題整理や対応の検討を行うことを目的に、令和4年2月に管内市町村の実務担当者による「森林経営管理制度県北地域連絡会議」を設置し、令和4年度から、年2回開催しています。今年度は第1回の会議を令和5年7月28日に開催し、市町村担当者9名が参加しました。

会議では、令和5年7月に林業普及指導員が林野庁主催の森林経営管理リーダー育成研修に参加して得られた情報を共有しました。森林環境譲与税を活用した森林整備の新しい取組である、民間事業体への斡旋、協定に基づく間伐、市町村独自の補助事業の活用などを紹介するほか、各市町村の取組、抱える課題について意見交換を行い、参加者からは、他の市町村の動きや共通する悩みが共有でき、有意義な会議であったとの声も聞かれました。



採材技術研修



森林経営管理制度県北地域連絡会議

3 おわりに

森林整備の推進に向けた当管内の課題には、森林経営計画認定面積が低位で推移していることが挙げられます。今回紹介した上記の取組に加えて、今年度は、森林組合や林業事業体に対する森林経営計画に係る作成支援を強化しながら、森林の多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進に引き続き取り組んでいきたいと考えております。

森連だより

令和5年度 第1回森林組合長 会議開催

当会は、去る八月二日、内堀雅雄福島県知事をご来賓としてお迎えし、郡山市の林業アカデミーふくしま研修施設「大講義室」において、森林組合長会議を開催いたしました。

同会議では、福島県が二〇五〇年までに脱炭素社会の実現を目指す、「福島県二〇五〇年カーボンニュートラル」を宣言したことを受け、県内森林組合ならびに当会は、適正な森林の整備・管理を通じて、森林の持つ地球温暖化防止機能を確保していくため、一致団結して森林吸収源対策に取り組んでいくとした決意表明を全組合長によって採択しました。



先日、NHKで放送された番組の中で、地球温暖化は、「地球の危機」ではない、「人類の危機」だとの言葉がありました。

地球温暖化は、体温と同じ気温や大雨などの異常気象、気象災害といった沢山のシグナルを発して、私たちの生活に確実に存在します。

その地球温暖化の抑制の一つとして、「森林の持つ多面的機能」の二酸化炭素吸収源としての役割が注目されています。

当県は県土七割を森林が占めており、それらの担い手である森林組合系統の急務は、地球温暖化が、既に「what if...」といった仮定の段階ではないことを理解し、愚直に森林を守り育て、次世代へ繋いでいくよう努めることです。



決意表明を採択し、知事を囲んで記念撮影

福島県2050年カーボンニュートラルの実現に向けた決意表明

地球温暖化による豪雨・猛暑リスクの増大、気象災害による経済・金融リスクの拡大など、気候変動の問題は深刻化しています。

このような中、本県においては、2021年に「福島県2050年カーボンニュートラル」が宣言されました。

さらに、本年6月には、「ふくしまカーボンニュートラル実現会議」が設立され、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、県民、事業者、民間団体、学界、行政機関がパートナーシップを構築して、オール福島で取り組むことが宣言されました。

カーボンニュートラルの実現に向けては、適正な森林の整備・管理を通じて、森林の持つ地球温暖化防止機能を確保していくことが重要であり、我々、森林組合系統は、一致団結して森林吸収源対策に取り組むことを決意し、ここに表明します。

令和5年8月2日
福島県森林組合連合会・福島県内森林組合



福島県林業労働力確保支援センターだより 林業就業者育成と雇用管理改善の取組について

◎はじめに
福島県林業労働力確保支援センターでは、事業者が林業の持続的かつ健全な発展を担う上で不可欠な、雇用管理改善や就業確保・育成等の取組みを支援しています。
ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修等について紹介します。

①「緑の雇用」担い手確保支援事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業者の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムと研修テキストのもと、集合研修と実地（OJT）研修を実施中です。
七月末現在の研修生は、一年生が二十八名、二年生が十九名、三年生が十四名の計六十一名で、前年度（五十五名）から六名の増となっています。

●集合研修

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生が二七日間、二年生が二四日間、三年生が十八日間で、全体的な日程は、六月一日から始まり、十一月三〇日に終了する予定です。

七月末日までに終了した研修は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働・現場作業の安全力・機器メンテナンス・獣害対策・健康管理・普通救命救急の学科、造林・育林・森林調査の実習、刈払機とチェーンソーの特別教育です。

二年生では、現場作業の改善力・機器メンテナンスの学科、造林・育林の

実習、走行集材機械の運転に係る特別教育です。
三年生では、現場作業の総合力・森林施業の体系・事業所経営の学科、車両系建設機械運転技能講習、伐木等機械・簡易架線集材装置の運転に係る特別教育です。



機械運転特別教育の受講状況

●実地（OJT）研修

事業者が行う研修（最大八ヶ月間）で、六月一日から開始しています。
県内では、二九の認定事業者で各指導員のもとで行われています。

②「緑の雇用」担い手確保支援事業（フォレストリーダー研修）

認定林業事業者の就業経験五年以上の者を対象とし、効率的な現場作業を主導できる現場管理者を育成するための研修を実施中です。

今年度の研修生は十三名で、前年度（二一名）から十八名の減となっています。

カリキュラムは、能力向上指導方法や生産性向上のための作業システム等十八項目の座学と、造林作業指揮者安全衛生教育ほか二つの資格取得です。全体的な日程は、七月一日から八月三十一日の間で、十六日間となっています。

③林業アカデミーふくしま就業前長期研修

県からの受託事業で、森林作業技術の習得等に係る六講座の講師・実習地の調整を行うとともに、林業の現場を

実地に視察する「林業の仕事」を福島県森林組合連合会と共同で四月十三日に行いました。

今後は「森林作業道開設」・「高性能林業機械運転技術」の実習を実施する予定です。

さらに、インターンシップ実施調整を行い、受入可の意向を三三事業者から得たほか、就職ガイダンスを十八事業者の参加で開催しました。

④林業アカデミーふくしま短期研修

「路網整備と作業システム（基礎）」について、地域における効率的な施業方法等の指導に必要な基礎的な知識・技術の習得を目的として、七月二四・二五日の二日間、県林業研究センター研修本館を会場に、参加者十五名で実施しました。

⑤雇用管理研修会・雇用管理改善相談会

全国森林組合連合会との林業就業支援事業（雇用管理改善）委託契約に基づき行うもので、林業事業者の雇用管理の改善を進め、林業の就業と職場定着を促進することにより、林業労働力の育成・確保を図ることを目的としています。

八月九日に南東北卸センター会議室（郡山市）を会場に、経営者や雇用管理担当者等三六名の参加で開催しました。

講師は温海町森林組合（山形県）の鈴木伸之助代表理事専務で、「組織経営を支える参加型人材の育成に向けて」と題して講演をいただいたこと。

人材は経営の最重要資源であるとの理念のもとで、(1)役職員全員研修会やミーティング等での目標共有と経営参加意識の醸成、(2)職員自ら労働生産性や生産コスト等の目標設定と課題解決に取り組み体質づくりや意識疎通の確保、(3)月給制・賞与の体系化・有休の計画的付与などの待遇改善によるモチベーションの喚起と公正な評価、の三つの基本的な取組を徹底されること

で、総収益が五億円に達し、提案型集約化施業（四四団地・一、五〇〇ヘクタール）の利用間伐に専念して二億円超の利益還元を実現されたうえ、約六千万円となった経常利益は将来を見込んだ人材投資につき込むなど、人材育成・投資と経営の安定が連動している状況に参加者は強い関心を示していました。



雇用管理研修会の開催状況

⑥森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験として、県立岩瀬農業高校園芸科の三年生二五名を対象とし、六月六日に刈払機の特別教育の受講を支援しました。

◎今後の研修事業内容

今後も次のとおり様々な事業を予定しております。逐次広報を行いますので、是非ご参加をお願いします。

①林業アカデミーふくしま短期研修

「路網整備と作業システム（実践）」について、素材生産性の向上に向けた技術指導に必要な知識・技術の習得を目的として、四日間の現地実習を十一月六日・九日に開催予定です。

②森林・林業担い手育成事業

林業アカデミーふくしま就業前長期研修の講師等を対象とする「講師に必要なスキル習得・向上のための実践研修」を十一月七日に開催予定です。

また、高校生等の職場体験、中堅技術者研修の開催、林業女子会への支援等を行います。

木の文化を育む(54)

ハレの日を祝う伝統工芸

(有限会社けやきの森)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

日本では昔から「ハレの日」に健康や幸福、豊作等を願う「餅」が食されてきました。正月の鏡餅や雑煮、一升餅、桜餅、ひし餅、柏餅などは、ハレの日の伝統行事に欠かせない食文化です。そして「餅つき」は古くから人々に親しまれ、その道具として「臼と杵」が用いられてきました。家族繁栄の象徴として大切に使用されてきた臼と杵は、食文化の変化や職人の不足、材料の入手が困難となり、今日では貴重なものとなりましたが、私たちがハレの日を祝う大切な道具として、多くの人々を笑顔にしています。

○けやきの森

先代より、ケヤキを製材し家業とする有限会社けやきの森(田村市・船引町)は、当初は造船の材料としてケヤキを製材し販売していましたが、後に住宅資材や木工品を販売する木材店として臼と杵を扱うようになり、三〇年前よりインターネット販売を通して餅つきの臼と杵を専門

に製造販売するようになりました。今日では日本で唯一の餅つき道具専門店として、こだわりの臼と杵を製造し販売しています。

代表取締役の市川勝夫さんは、自ら材料を厳選し、高品質の臼と杵をつくるために手間を惜しむことなく年間を通して臼づくりに励んでいます。現在では各家庭で餅をつくことは少なくなりましたが、「臼と杵でつく餅つき」のイベントは全国各地で行われており、けやきの森のお客様は海外にまで及びます。

○国産ケヤキの臼づくり

昔から臼の材料には樹齢一五〇年以上の非常に堅く耐久性のある国産ケヤキが使用されています。市川さんは、臼づくりに相応しい材を見立て三年以上乾燥させた後、妻のひとみさん、長男の勝章さんとともに、木を削って磨きをかけ、家族で連携を図りながら年間で約二〇〇個の臼を妥協することなく、至極の逸品に仕上げます。製作した臼の販売は、例年十月頃から繁盛期を迎え、年末

年始にかけて全て完売し、好評を得ています。

○臼づくりのこだわり

臼と杵は、一見して単純な形状ですが、市川さんのつくる臼と杵は、長年培われた知恵と努力によつて耐久性と機能性、そして美しさを兼ね備えています。使い手が使い易いよう、臼の入り口よりも内部を広く彫る「みかん彫り」で仕上げしており、杵でつき易く、餅を返しやすさという特徴があります。さらに穴の芯を抜き、埋木をして補強することで、ひび割れや水漏れを防止し耐久性が向上するよう製作しています。

○使い手の想いに応える

和菓子屋の店主は、「けやきの森の臼は他の臼と違い太鼓型で重量感と安定感がある」と言います。また「彫りも深すぎず、臼と杵のバランスが良いため、米が飛び散らず餅をつきやすい」、また保温性があるため「餅のつき上がり時間、温度、固さがちょうど良く、コシのある柔らかい餅に仕上がる」とその使い易さと餅のつき上がりが高く評価しており、長年臼を補修しながら使い続けています。

○ワレストッパー

けやきの森では独自に木材のひび割れを研究し、より効

果的な木材の割れ止め剤を開発しました。針葉樹から堅い広葉樹まで幅広い樹種に対応しており、半生材にも使用できます。無色透明の光沢、付着力、耐候性、耐水性があり、木工品等のクリア仕上げ塗料としても使用できる「安全性・低刺激性・扱いやすさ」に優れた水性塗料です。

○まとめ

餅つきは家族や大切な人々と協力し、共に豊かな時間を共有できるコミュニティを形成します。ハレの日を祝う食文化を通して、日本の伝統工芸が大切に後世に継承されることを願います。



けやきの森の「臼と杵」



左から
ひとみさん、
長男 勝章さん、
市川さん

県森連いわき共販における木材市況（8月分）

令和5年9月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	8.3	7.3	
	3.65	16上			
		24上	8.4	8.0	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10~13	12.0	11.5	
		14~16	9.9	9.4	
		18~20	11.9	9.9	
	6.00	22上	10.0	8.8	
16~20					
2.00	16上	7.0	6.0		
ヒノキ	4.00	10~13			
		14~16	15.2	14.0	
		18~20	15.0	14.5	
		22上	14.2	13.2	
	3.00	16~20	14.0	13.2	
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22			
		24上	7.5	7.3	
	3.00	16~22			
		24上	7.2	7.0	

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
クリ	4.00	16上	15.1	8.0	
	3.00	16上	8.1	8.0	
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	9月の共販日
<p>入荷は減少しています。販売量は1,898㎡（前年同月比55%）でした。</p> <p>市況は、スギ3.00m柱材、中目材ともに回復傾向にあり動きが良いです。スギ3.65m、4.00m中目材は変わらず鈍いままで。</p> <p>スギ3.00m、4.00m小径材は引き合いあり活発に取り引きされていますので造材よろしくお願ひ致します。</p>	<p>7日(木)</p> <p>19日(火)</p> <p>27日(水)</p>

行 事 と お 知 ら せ
<p>10月17日(火) 第26回良質材展示会</p> <p>県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。</p> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="福島県森林組合連合会 木材市況"/> <input type="button" value="検索"/> </p>

今回の目玉はパネルディスプレイ。スギやヒノキの耐久性を格段に向上させる技術を開発している「株式会社フランウッド」の代表取締役社長CEOである高橋ひかり氏や、二本松市在住の建築家で森と循環するサイクルをめざす「株式会社ADX」の代表取締役である安齋好太郎氏等を迎え、カーボンニュートラルの実現に向けた森林と企業と行政のパートナーシップについて熱く語り合います。

そのほか、組み立てログハウス



「WOODY IWAKI 2023」

いわき農林事務所 二瓶 郁子

イベントの秋！いわき市内においても、様々なイベントが催されています。その中から、「WOODY IWAKI 2023」をご紹介します。

十月八日(日)の十時十五時、小名浜公民館において開催されるこのイベント。「いわき市豊かな森づくり・木づかい条例」の普及啓発や、森林の循環利用の意識醸成・高揚を図ることを目的としています。

体験や木工工作体験もあり、大人から子供まで楽しめる内容となっています。

興味を持った皆さん！会場でお待ちしております。

※お問い合わせ…いわき市農林水産部林務課 TEL: 〇二四六

— 二二 — 一一八一



写真は昨年度の様子です

はなしの
ひろば

隙 間

今年の季節は、この酷い暑さをどこまで引っ張っていくのだろう、と思っていた矢先、八月の始めには、薄の若い穂が、暑く重た気な風に揺れているではないか、庭では、蜻蛉が飛び交い、お盆の頃からは、草むらから虫の声が聞こえてくるようになった。これは、そろそろ夏が逝く前ぶれなのか…と思ってもみたが、九月に入ってからもおきびしい残暑である。

九月は意外にも雨の月だ。「おもい出し おもい出しては 秋の雨」(俳人 土芳) 残暑や身の熱さを鎮めるかのように秋の雨が降り、この風情が「秋霖」である。が、ここ数年、秋だけではなく、雨が降れば線状降水帯の発生で、豪雨災害となってしまう激しさがあるので、雨の風情どころではないが、たまに秋霖のようなしとしと雨になると、庭に降る雨を眺めながら、心が落ち着いてくる。そして、庭の柿の葉に溜まった雨の水滴が、九月の風に揺さぶられ、ポタポタと土に滴り落ちる様子は一瞬だが、映像にしたら印象的なワンシーンになるような気がして眺めている。

ここ数年、地球温暖化の影響なのか、季節と季節の隙間がだんだん薄くなってきているような気がする。その隙間に揺らぐ、微かな自然の気配に「いいあんばいな風情」を感じてきたのに、としみじみ思う。が、夕焼けの色がここ少しずつ、深みを帯び広がりを見せてきている。もう、秋の色である。

(都)

表紙の写真



「全員集合」

第37回ふくしま緑の写真コンクール
銀賞
受賞者 鈴木和彦さん(福島市)
撮影場所: 福島市

発行人
飯沼隆

陽光社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

お知らせコーナー

野生きのこに関する注意喚起について

野生きのこが発生する季節となりました。国が出荷を制限している市町村から採取された野生きのこは、出荷・販売・加工、飲食店などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができず、ご注意ください。

また、一部市町村・品目では出荷が可能です。出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。安全な野生きのこの流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

●連絡先一覧

事務所名	住所・連絡先
県北農林事務所 (森林林業部)	福島市杉妻町2-16 (福島県庁北庁舎5階) 024-521-2632
県中農林事務所 (森林林業部)	郡山市麓山一丁目1-1 024-935-1367
県南農林事務所 (森林林業部)	棚倉町大字関口字上志宝50-1 0247-33-2123
会津農林事務所 (森林林業部)	喜多方市松山町鳥見山字天神6-3 0241-24-5734
南会津農林事務所 (森林林業部)	南会津町田島字根小屋甲4277-1 0241-62-5375
相双農林事務所 (森林林業部)	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
富岡林業指導所	富岡町小浜553-2 0240-23-6084
いわき農林事務所 (森林林業部)	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

※最新情報は福島県林業振興課ホームページでご確認ください。
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>)

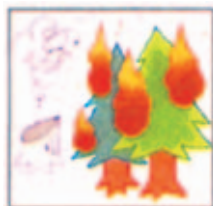
●野生きのこ出荷制限位置図



■ : 出荷制限市町村
 ■ : 出荷制限一部解除市町村
 西会津町 [ナメコ、ムキタケ、マイタケ、クリタケ]、三島町 [マイタケ]、会津美里町 [ムキタケ、ナメコ]、只見町 [ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、ナラタケ、フナハリタケ、マツタケ]、昭和村 [ムキタケ、マイタケ、クリタケ、ナメコ]、会津若松市 [ムキタケ、クリタケ]、柳津町 [マイタケ]、下郷町 [ムキタケ]、
 県内全域(湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村を除く)
 [県の定める出荷検査方針に基づき検査し、管理されたマツタケ]

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



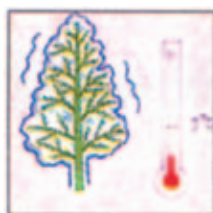
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1